



松村 優吾 Yugo MATSUMURA -Direttore d'orchestra-

桐朋女子高等学校音楽科作曲専攻を経て、桐朋学園大学音楽学部指揮専攻を卒業。その後、イタリア国立ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院指揮科に留学し、本場イタリアにおいてオペラを中心とした指揮法と音楽解釈を研鑽した。指揮を黒岩英臣、杉山洋一、ジャンルイジ・ジェルメッティ、ヴィットリオ・パリージ、イーゴリ・カラブチェフスキの各氏に、作曲を安良岡章夫、安藤久義の各氏に、ピアノを日比谷友妃子、斎木隆の各氏に師事。2012年9月、イタリア政府主催による全芸術分野の優秀者が集う「Premio Nazionale delle Arti（イタリア芸術賞）」本選指揮部門において第2位ならびに聴衆賞を受賞。2015年5月には、ルーマニア・コンスタンツァで開催された「Black Sea Opera Conducting Competition」において入賞および栄誉賞を受賞し、国際的な評価を得た。帰国後は、新国立劇場、日生劇場、藤原歌劇団など国内を代表する歌劇場・歌劇団でアシスタント・コンダクターを務め、多くのオペラ・プロダクションに携わる。現在、新国立劇場オペラ研修所アソシエイト・コンダクター、合唱団鯨音楽監督を務めるほか、オペラを中心にオーケストラ、合唱作品まで幅広いレパートリーの指揮活動を展開している。また、ピアニストとしてもオペラや歌曲のコレペティトゥア、音楽リサイタルの伴奏など数多くの演奏活動を行い、歌手との緻密なアンサンブルや豊かな歌心には定評がある。作曲を学んだ経験に裏打ちされた作品分析力と、ピアニストとして培った柔軟な音楽性を生かし、オペラでは舞台と音楽を有機的に結び付ける緻密な構成力、オーケストラや合唱作品では作品の本質を的確に捉えた表現を持ち味とする。イタリアで培った豊かな音楽性を礎に、オペラを活動の中心に据えながら、オーケストラ、合唱作品の分野においても意欲的な演奏活動を展開している。



黒田 詩織 Shiori KURODA -Soprano-

武蔵野音楽大学声楽学科卒業。同大学院音楽研究科修了。二期会オペラ研修所第59期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。サントリーホールオペラアカデミー第3期プリマヴェーラコース修了。指揮者ワレリー・ゲルギエフ氏が総監督を務める PMF札幌音楽祭2017に出演。公益財団法人さわかみオペラ芸術振興財団イタリア留学助成金奨学生として2019年に渡伊。2020年ブッチーニ・オペラ・フェスティバル主催公演「修道女アンジェリカ」にてヨーロッパデビュー。2022年ブッチーニオペラフェスティバルアカデミー、ゴルドーニ歌劇場主催マスカーニアカデミーにそれぞれ選抜され修了。第68回トッレ・デル・ラーゴにて行われたブッチーニフェスティバルの本公演《つばめ》に出演。イタリアジェノバのボルツァネート、またパルマのコロルノにて《ジャンニスキッキ》チェスカ役で出演。第16回「Cappuccilli -Patanè-Respighi」国際音楽コンクールにて、審査員特別賞受賞。国内では《椿姫》ヴィオレッタ、《愛の妙薬》アディーナ、《ラ・ボエーム》ミミ、ムゼッタ、《カルメン》ミカエラで出演。二期会会員。



林 真咲 Mae HAYASHI -Contralto-

横浜市出身。東京藝術大学声楽科卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞受賞。同大学大学院音独唱専攻、サントリーホールオペラ・アカデミー修了。2016年パート・ヴィルトパート・ロッシーニ音楽祭『オリバー伯爵』ラゴンド役で欧州デビュー後、ブッセート・ヴェルディ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ役、ピアチェンツァ市立歌劇場 世界初演『オペラ・ミニマ』エラト役、ニコラ・ルイゾッティ指揮 サントリーホール ホール・オペラ『椿姫』フローラ役、吉田裕史指揮 カウナス城オペラフェスティバル『蝶々夫人』スズキ役、園田隆一郎指揮 藤沢市民オペラ『魔笛』第二の侍女役、鈴木優人指揮 調布国際音楽祭『ロデリンダ』エドゥイジェ役、ピエール・ジョルジョ・モランディ指揮 東京・春・音楽祭『マノン・レスコー』（演奏会形式）音楽家役、佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ『カルメン』メルセデス役など国内外のオペラに出演。コンサートでは井上道義指揮 マーラー『第二番復活』『第三番』、佐渡裕指揮 ベートーヴェン『第九番』、尾高忠明指揮 エルガー『海の絵』などのアルトソリストを務めた。令和元年度文化庁新進芸術家海外研修員。



後田 翔平 Shohei USHIRODA -Tenore-

愛媛県西条市出身。東京音楽大学卒業。第44回イタリア声楽コンコロソ第1位ミラノ大賞受賞。2017年度よんでん芸術文化奨励賞受賞。2018年度公益財団法人さわかみオペラ芸術振興財団イタリア留学助成金奨学生。2014年に渡伊。パルマ国立音楽院アッリーゴ・ボーイトを経て、2016年にモデナ市立歌劇場研修所修了。2017年にモデナ市立歌劇場において、歌劇「ジャンニ・スキッキ」のリヌッチョ役にてデビュー後、オリンピック劇場（ヴィチエンツァ）、ブッチーニ音楽祭（トッレ・デル・ラーゴ）、クロアチア国立歌劇場（ザグレブ）をはじめ国内外で出演を続ける。またイタリア老舗レーベルBongiovanniのCD録音には2021年ピッチンニ作曲「ディドー」をはじめ、2022年、2023年と主要な役で続けて参加している。その他にはルッカのサン・マルティノ大聖堂におけるブッチーニ作曲、グローリア・ミサやモノコ公国、モンテカルロにおけるロッシーニ作曲、小荘巖ミサ等、第九や宗教曲のソリストとして出演を重ねている。2023年より日本を拠点に活動しており、2026年/2027年シーズンは新国立劇場にも出演予定。Youtubeチャンネル【リリカ兄弟】においても活動中。



鈴川 慶二郎 Keijiro SUZUKAWA -Baritono-

東京都大田区出身。玉川大学芸術学部卒業。声楽を柿沼伸美氏に、舞台表現を馬場紀君氏に師事。これまでに、モーツァルト「魔笛」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」、ブッチーニ「ラ・ボエーム」、「ジャンニ・スキッキ」、「トゥーランドット」、ヴェルディ「トロヴァトーレ」、「椿姫」、ビゼー「カルメン」、ベルゴレージ「奥様女中」、チマローザ「秘密の結婚」、ドニゼッティ「愛の妙薬」、シュトラウス「こうもり」、レオンカヴァッロ「道化師」、寺嶋民哉「紅天女」等のオペラ公演をはじめ多数のコンサートに出演。日本オペラ協会主催「第73回日本オペラ・日本歌曲連続演奏会」に郡愛子氏の推薦を受け出演。チェコ音楽コンクール2023声楽部門2位。東京を中心に活動中。藤原歌劇団準団員。日本オペラ協会会員。

伊予管弦楽団

“伊予の国”にゆかりのある音楽愛好家によって2020年に結成されたアマチュアオーケストラ。《再現芸術》としての音楽の魅力に深く惹かれた仲間が集い、現在団員数は約100名。松山での年1回の定期演奏会に加え、県内各地で精力的に演奏活動を展開している。オーケストラ編成による演奏のみならず室内楽にも積極的に取り組み、幅広い形態で音楽を届けている。愛称は“いよかん”。2025年にはNHK交響楽団首席ホルン奏者・今井仁志氏との共演を経験し、表現の可能性をさらに広げながら、地域に豊かな音楽文化を育むべく活動を続けている。

西条第九合唱団

西条第九演奏会のために結成した特別合唱団。地域に根ざした音楽文化の発展を目指し、年に一度の「第九」演奏会を通じ、音楽の力で人と人との心をつなぎ、世代や経験を超えて共に響き合う喜びを分かち合うべく練習を重ねている。団員は10代からシニア世代まで幅広く、未経験者や初心者も歓迎しており、音楽を通じて新たな自分に会える場となっている。合唱団指導はNHK全国学校音楽コンクール等で市内中学校を数多く全国大会へと導いてきた磯恒子が担当。